

## 会 議 録

会 議 名	令和 5 年度第 1 回野田市障がい者基本計画推進協議会
議題及び議題毎の 公開又は非公開の別	1 会長・副会長の互選について（公開） 2 第 4 次野田市障がい者基本計画について（諮問） （公開） 3 第 7 期野田市障がい福祉計画・第 3 期野田市障が い児福祉計画について（諮問）（公開） 4 障がい者団体等へのヒアリング結果について（報 告）（公開） 5 第 3 次野田市障がい者基本計画に基づく令和 4 年 度の取組実績及び令和 5 年度の取組予定について （報告）（公開） 6 第 6 期野田市障がい福祉計画・第 2 期野田市障が い児福祉計画に基づく取組の進捗状況について（報 告）（公開）
日 時	令和 5 年 7 月 7 日（金） 午後 1 時 30 分から午後 3 時 50 分まで
場 所	市役所 8 階大会議室
出席者氏名	会 長 小林 幸男 副会長 高峰 啓三 委 員 上木 昭 小倉 明美 加藤 満子 熊沢 英也 田代かさね 清本健二郎 幡野喜志子 増田 雅樹 松岡 巖 高野 紗生 小暮 正男 岩木 博之 香山 啓 猪越 裕 新谷真紀子 星野 静江 事務局 鈴木 有 （市長） 今村 繁 （副市長） 小林 智彦（福祉部長） 岡田 勇貴（障がい者支援課長） 大月加奈子（障がい者支援課長補佐） 山崎 優（障がい者支援課障がい者福祉係長）

	榎本由香梨（障がい者支援課相談支援係長） 林 晋也（障がい者支援課障がい者福祉係主査） 山崎 淳美（障がい者支援課障がい者福祉係主任主事） 内田 遥香（障がい者支援課障がい者福祉係主事） 中村 正則（企画調整課長） 山本 茂（総務部参事兼行政管理課長） 須賀 良平（市民生活課長） 森下 元博（市民生活部次長兼防災安全課長） 田中 徳寿（商工労政課長） 池澤 孝之（みどりと水のまちづくり課長） 茂木 大介（スポーツ推進課長） 中山 高裕（都市部参事兼都市整備課長） 原口 大助（都市部愛宕駅周辺地区市街地整備事務所長補佐） 海老原純一（生活支援課長） 山口 忠司（高齢者支援課長） 高塚 和枝（人権・男女共同参画推進課長補佐） 金子 寿一（児童家庭課長補佐） 宮下 幸治（子ども保育課長補佐） 秋鹿弥由紀（保健センター長補佐兼子どもの発達相談室長） 田村 秀一（選挙管理委員会事務局長補佐） 戸塚 進（生涯学習部次長兼教育総務課長） 安藤 剛行（生涯学習課長） 関根 康弘（指導課主幹兼課長補佐兼庶務係長）
欠席委員氏名	委員 谷口 勲 赤塚 仁 角田 敏雄
傍聴者	1名
障がい者支援課長補佐	令和5年7月7日 午後1時30分、開会を宣言
市長	任期満了に伴う委員改選後初めての会議であり、市長名で会議を招集した旨を説明
障がい者支援課長補佐	市長から挨拶
	各委員から自己紹介 欠席の委員を報告した。 会議の成立を報告した。 会議録作成のため録音機を使用することを報告するとともに、発言について説明した。

	<p>審議の公開について報告した。</p> <p>議題1 会長及び副会長の互選について 会長が決まるまで市長に仮議長を務めていただく。</p>
市長	<p>&lt;異議無しの声あり&gt;</p> <p>事務局に発言を求めた。</p>
障がい者支援課長補佐	<p>傍聴について説明した。</p>
市長	<p>傍聴について、許可してよろしいか。</p> <p>&lt;異議無しの声あり&gt;</p>
市長	<p>傍聴者入室</p> <p>会長及び副会長の選出方法を委員に問うた。</p>
清本委員	<p>推薦ではどうか。</p> <p>&lt;異議無しの声あり&gt;</p>
市長	<p>会長の推薦をお願いします。</p>
清本委員	<p>引き続き、野田市社会福祉協議会の代表の小林幸男委員ではどうか。</p>
市長	<p>小林委員に会長をお願いしたいと思うが、いかがか。</p> <p>&lt;異議無しの声あり&gt;</p>
市長	<p>会長は小林幸男委員に決定した。</p> <p>会長の決定に伴い、議長を交代する。</p> <p>御協力に感謝する。</p>
小林会長	<p>小林会長から挨拶</p> <p>副会長の推薦をお願いします。</p>

清本委員	野田市自立支援・障がい者差別解消支援地域協議会の会長を務めている障がい者支援事業所の代表の高峰啓三委員ではどうか。
小林会長	高峰委員に会長をお願いしたいと思うが、いかがか。  <異議無しの声あり>
小林会長	副会長は高峰啓三委員に決定した。
高峰副会長	高峰副会長から挨拶
小林会長	議題2 第4次野田市障がい者基本計画について（諮問）及び議題3 第7期野田市障がい福祉計画・第3期野田市障がい児福祉計画について（諮問）
市長	小林会長に諮問
小林会長	諮問書の写しを委員に配付 事務局から諮問要旨の説明を受けた。 市長が退席の旨を周知  <市長退席>
小林会長	議題4 障がい者団体等へのヒアリング結果について（報告） 事務局から報告を受けた。 質問等を委員に問うた。
上木委員	現在、防災や防犯などに関して、体系的なアプローチが必要だと感じている。 過去3年間で、自治会や障がい者の団体など、日本全国の様々な組織や団体がうまく機能せず、弱体化している。そのため、この協議会で立て直しをするチャンスだと考えている。

	<p>特に防災に関しては、市だけでは限界がある。民生委員などの組織もあるものの、それだけでも限界があるので、地域の弱者や高齢者を守るための組織が必要である。私は以前、千葉県の交通安全推進隊に関わり、地域の子どもたちの支援など、ボランティアを行ってきた。</p> <p>民生委員や消防団などの組織で活躍する人やボランティアがいると思うので、地域の防災・安全推進隊を作った方がいいと思う。</p> <p>今年は関東大震災から 100 年が経過し、災害がいつ起こってもおかしくない状況である。災害時に障がいのある人や高齢者などが孤立する状況になったときに、地域で支え合える組織が機能していれば、そのようなときに支援できるため、日常的に交流を持つことが必要である。</p> <p>自治会や民生委員などの組織がうまく機能していないのが現状である。地域の防犯や防災を支援する人を育成して一人でも多く支援者を増やす必要がある。そして、各地域に支援者が 5 人はいないと組織が機能しないと考えている。このような、野田市らしい支援を実施してほしい。</p> <p>そのためには、第 4 次野田市障がい者基本計画や野田市地域防災計画に取り入れ、支援者が分担して地域を守っていく視点が必要である。</p>
障がい者支援課長	<p>上木委員の意見について、議題 4 の 7 ページと 8 ページにおいて、防災や防犯の推進に言及している。具体的には、8 ページの 35 番に地域の見守りや避難時の声掛け・手助けなど、地域住民のつながりを強化する必要性についての意見がある。特に防災においては、自助、共助、公助のうち共助の部分に注目し、自治会など地域の組織を活用して、そのような取組を計画に位置付けたいと考えている。</p>
新谷委員	<p>教育の振興に関して、母親のほぼ 100% が感じる問題点として、年度が替わるたびに担任が変わり、引継ぎが不十分であることが挙げられる。子どもの特性や性格を説明するために時間を費やし、ようやく理解さ</p>

<p>障がい者支援課長</p>	<p>れるようになると、再び年度が替わってしまうという状況が生じている。この課題に対処するために、87番のライフサポートファイルの活用を是非推進してほしいと考えているが、教育委員会に対してどのような働きかけをしているか伺う。</p> <p>全ての意見は庁内で情報共有をしている。各課のライフサポートファイルへの取組について、しっかり連携していきたいと考えている。</p>
<p>小林会長</p>	<p>ほかに質問を問うた。</p> <p>質問等なし。</p> <p>議題5 第3次野田市障がい者基本計画に基づく令和4年度の実績及び令和5年度の実績について（報告）</p> <p>事務局から報告を受けた。</p> <p>質問等を委員に問うた。</p>
<p>新谷委員</p>	<p>先ほども触れたが、ライフサポートファイルの導入や合理的配慮などが通常のクラスではほぼ受け入れられず、特別支援クラスでも実行されにくい状況で、子どもたちが困難な状況に直面している。この問題に対する教育委員会への働きかけについて、どのように行われているのかについて詳細を教えてください。</p>
<p>障がい者支援課長</p>	<p>先ほども説明したとおり、情報共有は行っている。さらに、野田市自立支援・障がい者差別解消支援地域協議会専門部会の子ども部会では、ライフサポートファイルなどを議題に取り上げ、議論を深め、実施に向けた取組を進める予定である。障がい部門だけでなく、教育部門との連携が重要であるため、教育委員会と連携して取り組みたいと考えている。障がい者基本計画にも教育の振興という項目があるため、丁寧に盛り込む予定である。次回の協議会で委員に計画にどのように反映させるかを御審議いただきたいと考えている。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>新谷委員から特別支援教育に関する話題が出たが、これについて私は常に考えている。特別支援教育法が</p>

<p>障がい者支援課長</p>	<p>できた際、野田市では迅速に会議を開催した。文部科学省が強調したのは、特別支援教育は特別支援を受ける生徒だけでなく、他の生徒への支援でもあること。私はこれが注目するところであると考えている。対象の生徒に焦点を当てがちだが、一般の生徒と同じ教育が重要である。しかし、これが取り上げられていないのは残念である。毎年同じような指摘をしているが、状況が変わらないのは残念である。第4次野田市障がい者基本計画では、具体的な内容を盛り込んでほしい。</p> <p>教育の振興の中でインクルーシブ教育システムの推進という項目について、新谷委員が述べた切れ目のない支援体制作りや多様な学びの提供の充実を目指すことを記載しているが、一步二歩踏み込んで、充実させるための取組を計画に盛り込みたいと考えている。教育委員会と連携しながら、計画を作成していきたいと考えている。</p>
<p>猪越委員</p>	<p>加藤委員の発言にある、全国的な取組が必要な共生社会について、資料8ページの121番に共同及び交流学習の充実が必要であると記載されており、今説明のあった21ページの90番に令和5年度においても小中学校と特別支援学校の交流及び共同学習の場を丁寧に進めていくという話があった。同世代の仲間が障がいについて理解し、共に生活する一員であるということ成長段階で学んでいくことが非常に大切である。このことから、特別支援学校に通う生徒たちが地域の小中学校に副次的な籍を置き、地域の学校にも名簿や机、ロッカーなどを準備してもらい、その学校には通えないけれども、友達や仲間がいることを意識しながら、通常の学校の生活を送り、交流の際には温かく迎え入れられるようにすることで、障がいの特性などを学びながら、全員が生き生きとした生活を送るための重要な機会になる。そのため、このような取組を次の計画に組み込むことが望ましいと考えている。</p>
<p>障がい者支援課長</p>	<p>貴重な御意見に感謝する。</p>

<p>加藤委員</p>	<p>共生社会が第4次野田市障がい者基本計画の大きなテーマとなっていることから、特別支援学校と調整を図りながら、計画を作成したいと考えている。</p> <p>4ページの19番について、コミュニケーション支援ボードの設置に加え、タブレットの表記をお願いしたい。誰でもできる意思疎通支援のための遠隔手話タブレットが障がい者支援課にあることを表記してほしい。</p> <p>また、8ページの40番に関連して、市内の相談支援事業所についての支援体制加算が行われる研修について、詳細を知りたい。また、市内の相談支援事業所が医療的ケアに強いであるとか、発達障がい強いであるなどの情報が相談支援事業所の一覧表に明記されていると、相談支援事業所を選びやすくなると思う。</p> <p>さらに、17ページの70番と71番の投票について、これまで投票所のバリアフリー化などをしていただいたが、自己の意思を伝えにくい人々のために、投票支援カードやコミュニケーション支援ボードの設置を総務省が提案している。野田市でもこのような取組を実現し、障がい者基本計画では、一歩、二歩踏み込んでほしい。いまだ検討中のままであることは心苦しいので、代理投票の適切な実施方法などについても、工夫をお願いしたい。</p>
<p>障がい者支援課長</p>	<p>情報アクセシビリティ向上のためのタブレット導入について、野田市ではDXと呼ばれる、いわゆるデジタル化の取組の推進のため、今年度から情報政策課が設立された。各課でデジタル化の検討が行われており、タブレットの導入も有効であると認識している。先進的な事例を参考にしながら、最適なデジタル化を検討していく。</p> <p>また、相談支援事業所に関しても、分かりやすい案内を目指し、各事業所の強みを紹介するパンフレットの見直しを検討している。野田市自立支援・障がい者差別解消支援地域協議会の相談支援部会で利用者のニーズに対応した案内を検討していく予定である。</p>



選挙管理委員会事務局 局長補佐	コミュニケーション支援ボードについては、既に各投票所に設置し、運用している。一方、投票支援カードについては、他の市町村での取組を把握しているが、内容の検討が必要であるため、現在、検討中である。
星野委員	私は、以前はグループホームで生活支援員として働いていたが、グループホームでは無資格の職員が多く、自閉症や知的障がいなどの方々に関する知識や経験が不足していることに驚いた。そこで、グループホーム設置の際には、有資格者を何名か配置されるよう要望したい。
障がい者支援課長	グループホームは県の管轄であるため、市でできる部分ではないと考えている。
星野委員	市で有資格者の配置ができないのであれば、強度行動障がいのための講座を実施していただきたい。
障がい者支援課長	県で研修を実施しているのは承知している。
福祉部長	我々が第一に考えているのは、利用者が適切な支援を受けられるということ。ただ今の御意見は、市が実施すべきだということだが、障がい者支援課長からあったとおり、県が強度行動障がいの研修を実施しているため、市としてはまずそこに参加してもらい、基礎を身に付けながら他の研修も紹介している状況である。この取組の実施後に今後の方針を検討したいと考えている。
田代委員	野田市肢体不自由者父母の会では、車椅子などを使用する方々への支援として、福祉避難所だけでなく車中避難所などの代替策について継続して要望している。5ページの25番では、今年度に新たな福祉避難所を指定し、その運用について検討するとされているが、内容が曖昧なため、車中避難所という言葉を使わなくても、もう少し具体的な内容があればと考えている。

障がい者支援課長	<p>こちらの運用について、検討するという表現をしているが、現在、福祉避難所の在り方について検討しており、より具体的かつ分かりやすい内容を計画に掲載できるよう、防災安全課と協力して詳細を詰めていく。次回の協議会で御審議いただきたい。</p>
新谷委員	<p>私も、先ほどの星野委員の発言に同感である。特別支援教育の場でも、特別支援級を担当する先生が必要な知識を持たずに担任になることがある。これは、先生たちにとっても大変なことである。親や子どもだけでなく、先生たちもそのような状況で試行錯誤しても成功体験に結び付かず、最近では病んで辞める先生も多いと思う。私は以前、千葉県発達障害者支援センターの宅間先生が開催した教師向けの講座に参加したことがあり、それはかなり前に野田市で開催されていたが、今後もそのような計画があるか。悩みながら特別支援教育に取り組む先生たちにもそのような機会を提供してほしいと思っている。</p>
指導課主幹兼課長補佐兼庶務係長	<p>学校の先生方が知識不足であるという点について、研修が必要であるということだと思うが、学校の教員は様々な研修を受けており、その研修を市が実施するのか県が実施するのかどうかは別とし、同様の研修を実施できるようであれば検討したいと思う。</p>
加藤委員	<p>20 ページ、87 番、優先調達法に基づく物品の調達方針について、市の予算として 370 万円を目標値としているが、実績が 69.7%しか達していない。令和 5 年度が同じ結果とならないよう、工夫や対策をしているのか。</p>
障がい者支援課長	<p>加藤委員の御指摘のとおり達成率が 7 割弱であったため、令和 5 年度の取組として、まずはパンフレットを充実させることを検討している。これに加えて、野田市自立支援・障がい者差別解消支援地域協議会の就労支援部会での見直しも行うとともに、各課が物品調達できるものについて積極的に購入して目標達成に向けて進めていきたいと考えている。また、役務の提供</p>

<p>福祉部長</p>	<p>に関しても、可能な範囲で庁内での取組を強化していきたいと考えている。今年度は積極的に行動し、来年度の予算取りでも物品調達に工夫を凝らし、全庁的に目標達成に向けて取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>補足する。概要は障がい者支援課長が説明したとおり。具体的には、今年度の状況では100%の達成は難しいと認識している。各課は、予算をどのようにして調達方法に結び付けるかが分からないと思う。そのため、障がい者支援課が各課と協議し、障がいのある人が働く施設からの購入などのアプローチを検討する。また、私自身も各主管者に直接協力を要請する予定である。</p> <p>予算の枠内で活動する必要があるが、予算を効果的に活用し、優先調達に結び付けられるよう検討する。来年度についても、予算の編成前に再度協議し、適切な方法を検討していく予定である。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>報告の中で、福祉に携わる人材不足に大変苦慮しているところが多くある。市は、保育士の募集を行うなど、保育の人材不足に対処する取組を行っているが、同様に障がい福祉分野でも職員が不足しているとどの施設も感じている。新しい障がい者基本計画が策定される来年度に向けて、福祉に特化した新たな取組にチャレンジしてほしい。</p> <p>また、上木委員から発言のあった防災計画について、明日災害が起こったらと障がい者団体連絡会の多くの人が不安に思っているため、速やかに防災安全課と連携し、福祉避難所を含め、計画を進めていただきたい。</p>
<p>障がい者支援課長</p>	<p>一つ目の支援不足については、市も認識しているため、要望として受け入れ、今後検討していく。</p> <p>二つ目の防災に関する要望については、田代委員の意見の際に回答したとおり、福祉避難所や避難全般の在り方については、次期計画に踏み込んだ形で盛り込む予定である。防災安全課と連携し、計画を策定していく。</p>

加藤委員	<p>保育士の募集が行われる一方で、福祉に携わる人々の募集が難しい理由について疑問がある。保育士の場合は、市が保育園を運営しているから可能なのかという点について、福祉事業所も本来は野田市が行うべき事業であり、民間の事業所でも野田市の福祉を支える一翼を担っていると考えられる。したがって、民間の事業者も市の福祉を支える一員として考えるべきであり、その点を考慮して実現できるよう努めていただきたい。</p>
上木委員	<p>グループホームの建設は、市町村にとっての努力義務とされており、国もその方針を持っている。しかし、視覚障がい者向けの施設が不足しているため、野田市だけでは対応しきれない場合は、東葛地域の5つの市で協力して取り組むことも検討すべきである。東葛地域の連携協議会などで提案し、地域全体で視覚障がい者に特化した施設を検討していただきたい。これにより、視覚障がい者やその家族が安心して利用できる施設が整備され、地域全体の支援体制が向上すると期待している。国もこのような支援について取り組んでいることから、大局的な視点で検討していただきたい。</p>
障がい者支援課長	<p>要望として承る。</p> <p>次の議題である障がい福祉計画では、グループホームに関する目標値を位置付け、その達成度を計画の中で確認していく。また、障がいの特性に応じた特化した施設についても検討を進めるという点については、委員の御指摘のとおりであるため、市で実現可能な部分を見極め、次の障がい福祉計画の策定を進めていく予定である。</p>
星野委員	<p>福祉における人材確保の懸念が高まっているため、野田市在住の看護師、介護士、医師の登録を呼びかけ、災害が起こったときなど、万が一の際に迅速な協力を得られるシステムの導入するのはいかがか。</p>
障がい者支援課長	<p>御意見として承る。</p>

小林会長	<p>ほかに質問を問うた。          質問等なし          議題6 第6期野田市障がい福祉計画・第2期野田市障がい児福祉計画に基づく取組の進捗状況について          (報告)          事務局から報告を受けた。          質問等を委員に問うた。</p>
猪越委員	<p>7ページの就労定着率に関する部分について、定着率がどの期間にわたって計測されているのか伺いたい。通常、最初の1年目は高い定着率が見られるが、2年目や3年目になると定着率が低下する傾向があると思う。これは、初めのうちは実習などを一緒にやっていた方が、途中退所、場所の変更、新規利用者が来るなどの理由により、うまくいかなくなるケースがある。そのため、どの期間で定着率を計測するかを慎重に検討した方が良いと思う。</p>
障がい者支援課長	<p>猪越委員の御指摘のとおり、説明不足であるため、次回の協議会にて就労定着率の期間の考え方について資料をまとめ、説明させていただきたい。</p>
小林会長	<p>ほかに質問を問うた。          質問等なし。</p> <p>&lt;手話学習&gt;</p>
小林会長	<p>その他について、事務局に問うた。          事務局から説明を受けた。</p>
小林会長	<p>午後3時20分閉会を宣言</p>